

2024.05.12. まるで私が罪を犯したことがないかのように

ガラテヤ 2 章 1 5 節から 1 6 節 Leitu 牧師

頭を下げて、一緒に祈りませんか？ お父様、主よ、本当にありがとうございます。私たちの必要な時に、すぐそこにあなたが共にいてくださることを感謝します。主よ、私たちをあなたに集中させてくださいますか？ あなたを探し求めても宜しいですか？ あなたの御言葉でのこの時間をありがとうございます。ここカルバリー・カネオへの牧師たちとリーダーシップに感謝します。主よ、この場所、この教会、あなたの教会を祝福してくださいました。あなたに従い、あなたの導きを求めるしもべたちと共に。ですから、今朝、御言葉によって私たちに語りかけてください。主よ、不安やストレス、あなたから目を離そうとするものから心を鎮めてくださいますか？ 私たちをあなたの近くに引き寄せ、保ってくださいますか？ イエスの御名によって、アーメン。

レイトウ牧師：アローハ！ 会衆：アローハ！ ご着席ください。この礼拝堂（聖域）におられる皆さん、オンラインの皆さんも、日曜日の第二礼拝へようこそ。今日、お母さんである全ての皆さんへ、母の日おめでとうございます。母の日おめでとうございます！ 会衆：母の日おめでとう！ アーメン 一拍手喝采ーお母さん方、雨ですが、今日、祝福された日でありますように。また、あなたがここで見つけたすべてが、あなたの家族のための祈りであり、答えであることを祈ります。母である皆さんに神の祝福がありますように。日曜日の第二礼拝へようこそ。ご存知のように、JD 牧師は取るに値する休暇中です。いまだに、JD 牧師は働いていることを知ってください。JD 牧師は元気ですけど、5 月は休み、家族と過ごすのに良い時です。どうか、彼の家族に主の守りの垣根があるように、主が妻ケリーを癒し続けてくださるように祈ってください。日曜日は、2 つの礼拝があって、8 時半からの礼拝は、JD 牧師が戻ってきたら、「聖書預言・アップデート」で、10 時 45 分からの礼拝は、新約聖書を通して学んでいます。JD 牧師が戻りましたら、ワクワクする書「ヨハネの黙示録」を学びます。週の半ばの学びは、ここ礼拝堂（聖域）で、木曜日午後 7 時からです。木曜日の夜は、「ダニエル書」を学びます。ワクワクする時間と学びが待っています。是非いらしてください。毎月第一火曜日、午後 7 時から、ここ礼拝堂（聖域）で、私たちは集まり、教会全体で祈りを捧げます。先週、「ガラテヤ書」2 章 14 節まで、私たちは全て学び終えました。今日は 15 節と 16 節です。今日の学びのタイトルは、「まるで私が罪を犯したことがないかのように」です。今日ここにいる、そしてオンラインの母さんたちのために祈りたいです。また、私たちの御言葉の学びへ神の祝福を祈り願っています。

天のお父様、今日あなたの御前に参ります。主よ、私たちの人生に置かれた母たちに感謝します。主よ、あなたは、私たちが形造られる前から、母を通して誰として生まれるかをご存知でした。あなたは私たちのために素晴らしい計画をお持ちでした。私たちは人生をあなたに委ねました。主よ、私たちの世話をよくしてくれた母たちの従順と、御言葉を分かち合ってくれた母たちに感謝します。主よ、母たちに感謝します。なんと祝福でしょう。また、今日、あなたの御言葉へと神の祝福を祈り願っています。主よ、私たちに教え、導き、あなたのすべての真理へと導いてください。主よ、JD 牧師と彼の妻のケリー、そして、彼の家族のために祈ります。あなたが守りの垣根を置き彼らを覆い、見張り、祝福し、守ってください。イエスの御名によって祈ります。アーメン。

イエス・キリストの福音は、異邦人のガラテヤ地方で宣べ伝えられ、ユダヤ人も異邦人も救われました。彼らは歴史上初めて兄弟になりました。互いに関わりを持つことは決してありませんでした。ユダヤ人も異邦人もキリスト教に改宗しました。昔からの敵同士がクリスチャンになり、キリストにある兄弟姉妹になりました。神が彼らの心を変え、彼らの人生も変えておられるからです。使徒パウロが改宗したのは、イエスが十字架につけられてから 5 年後でした。確かにパウロはイエスについて聞いていました。パリサイ人だった時、イエスに会っていたかもしれません。パウロは、救い主イエスを殺そうとしたユダヤ教指導者の一人でした。「第二コリント人への手紙」5 章 17 節、聖書は語ります。

ーII コリント 5 : 1 7ー

ですから、だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。

驚くべき変化です。パウロは今、新しい心を持つ新しい信者です。パウロが生まれる前から神がこのご計画

を持っておられたことを私たちは知っています。アンティオキアの教会は成長しています。使徒パウロは、この教会を導き祝福されています。聖霊の御力によって、自分の力ではなく、神の聖霊の御力によって。14年後、パウロはガラテヤ地方のガラテヤ人へ手紙を書きました。私たちは極めて重要なキリスト教の教理を学ぶ時、パウロの手紙によって祝福されます。福音は、こう宣言します。「イエス・キリストによつての信仰は救いに十分であること。救われた人は、天国に行くことができること。」ガラテヤの大勢の人々は、ユダヤ人も異邦人も信じ、彼らの心には平安がありました。御父からの天国の約束を知ったからです。サタンは教会での祝福を不満に思っています。一見、信心深そうな人々であるユダヤ主義者たちが問題を起こそうとしています。この人々はイエスへの信仰を公言しますが、彼らの行いはイエスが教えられた福音のメッセージの真理と相反します。このユダヤ主義者たちは、福音がシンプルであるがゆえに反対しました。彼らはキリスト教にユダヤ教の要素を取り入れることを望みました。それは、モーセの律法に従うこと、そして割礼を受けることでした。彼らはまた、パウロが自分たちの宗教を捨てたと考え、パウロを軽蔑しました。彼らは強力なユダヤ人たちで、ユダヤ教と律法主義を手放しません。彼らは荘厳さと敬虔さを携えてやってきますけど、彼らの意図は悪意がありました。彼らの存在は、アンティオキアのキリスト教会に恐怖をもたらしました。ペテロ、バルナバ、アンティオキア教会のユダヤ人たちは、彼らに威圧されましたが、パウロは彼らに立ち向かいました。先週、15節で、パウロはペテロの不誠実な行為を叱責しました。これは、若いキリスト教会の歩みにおいて、重要な出来事であり、重要な時期でした。福音のメッセージは中傷されていました。強い叱責が必要となり、使徒パウロは立ち上がりました。先週、聞いたように、パウロは福音の真理を決める決定的な会議をエルサレムで開くことを決めました。パウロとユダヤ主義者との間の意見の相違を解決するためでした。パウロとバルナバは、この問題を解決するためにアンティオキアからエルサレムに向かいました。「使徒の働き」15章にそれが記されています。地図ではアンティオキアとエルサレムの距離は約300マイルです。当時、移動は時間がかかりましたが、問題は解決される必要がありました。私たちはまた、ユダヤ主義者たちがもたらした律法主義を見ました。ユダヤ教という宗教は、律法主義を再定義する考え方で溢れていました。神が人間に決して従うことを意図されなかった人間が作り上げた一連の法律や規則です。律法主義の問題は、見かけは敬虔ですが、内側の心の変化はありませんでした。ユダヤ主義者たちは律法主義の典型でした。使徒パウロは単独で、この偽善に立ち向かいます。パウロに圧力がかけられていたのがわかります。このアンティオキア教会では、パウロに注目が集まります。福音を破壊しようとする者たちの注目。逆境に怯える兄弟たちの注目。厳しくても、パウロはペテロと教会のすべての人々に真実を語りました。「ヨシュア記」24章15節は語ります。

一ヨシュア 24：15一

主に仕えることが不満なら、あの大河の向こうにいた、あなたがたの先祖が仕えた神々でも、今あなたがたが住んでいる地のアモリ人の神々でも、あなたがたが仕えようと思うものを、今日選ぶがよい。ただし、私と私の家は主に仕える。」

パウロがこう言ったのを想像できます。「聞きなさい。『あなたがたが仕えようと思うものを、今日選ぶがよい。』(ヨシュア 24：15参照)

このアンティオキア教会に対してです。「ユダヤ主義者の偽教師たちに従うのか？ それとも、主に従うのか？ 神はすでにこれらの真理をあなたがたに明らかにしておられます。」パウロは言いました。「聖霊が臨まれた時、あなたたちは内面の変化を感じました。ですから、今日、誰に従うのか、誰に服従するのかを選び決めなさい。」私とこの教会はどうかと言うと、イエスに仕え、イエスに従います。JD 牧師ならこう言うでしょう。「私はこの教会で、イエスに仕え、従います。」アーメン。会衆：アーメン。神はパウロに福音の真理を明らかにされました。主への愛ゆえに、パウロは臆することはありません。パウロは決してひるみません。福音の真理を知っているからです。神からのこの真理を知ることによって、彼は屈しません。人々への愛と配慮ゆえに、パウロは立ち上がり、闘います。パウロは、新しい信者が誤った教義によって間違った道に導かれることを望みません。人々が悔い改めてイエスに立ち返り、救われることを望みます。「第二ペテロの手紙」3章9節は語ります。

一II ペテロ 3：9一

主は、ある人たちが遅れていると思っているように、約束したことを遅らせているのではなく、あなたが

たに対して忍耐しておられるのです。だれも滅びることがなく、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。

聖書の中で、単語「悔い改める」は良い言葉です。方向を変える、方向転換するという意味です。神から逃げている人たちのために、神から逃げのをやめ、神に向かって走り出すことを意味します。悔い改め、心を尽くして神に立ち返った結果、必ず祝福された人生となります。私たちの箇所では、神の御心は人類が悔い改めて滅びないことで、彼らが罪と他者への憎しみから立ち返り、イエスを求めることでした。イエスが戻られるまで、世は平和にならないことを私たちは知っています。主との関係があるからこそ、私たちクリスチャンは混乱のときでもこの平安を持てます。先週「ガラテヤ人への手紙」2章14節で、使徒パウロがペテロを叱責するところで終わりました。「ガラテヤ人への手紙」2章14節です。

ーガラテヤ 2：14ー

私は皆の面前でケファ（ペテロ）にこう言いました。「あなた自身、ユダヤ人でありながら、ユダヤ人ではなく異邦人のように生活しているのならば、どうして異邦人に、ユダヤ人のように生活することを強いるのですか。」

今日の学び「ガラテヤ人への手紙」2章15節と16節で、パウロは、ペテロとユダヤ人たちの不誠実さについて厳しく非難を続けます。パウロは15節でペテロにこう言います。

ーガラテヤ 2：15ー

私たちは、生まれながらのユダヤ人であって、「異邦人のような罪人」ではありません。

パウロは当時のユダヤ人と異邦人の考え方を明らかにし、述べます。パウロはペテロに、はっきりとこう言いました。「私たちは、生まれながらのユダヤ人であって、・・・」（ガラテヤ 2：15前半参照）しかし、パウロはこう言います。「『異邦人のような罪人』ではありません。」（ガラテヤ 2：15後半参照）ご存知、ユダヤ人は常に異邦人を見下してきました。異邦人とは、皆さんや私たちのようなユダヤ人以外の人です。パウロが言っているのは、ユダヤ人は常に自分たちが異邦人よりも優れていると考えました。異邦人はいつも彼らが望むことを何でもしてきました。彼らには律法がないから、好きなように生き、好きなように罪を犯しました。ユダヤ人が決して口にしないような不浄な食べ物を食べ、神々に従い、偶像崇拜をします。しかし、聖書は常に真理を教えます。真実は、ユダヤ人も同じように悪かったのです。異邦人と同じくらい悪いのです。パウロはユダヤ人の同胞たちに向けて、「ローマ人への手紙」でこう語ります。「ローマ人への手紙」2章1節から5節です。

ーローマ 2：1ー

ですから、すべて他人をさばく者よ、あなたに弁解の余地はありません。あなたは他人をさばくことで、自分自身にさばきを下しています。さばくあなたが同じことを行っているからです。

ーローマ 2：2ー

そのようなことを行う者たちの上に、真理に基づいて神のさばきが下ることを、私たちは知っています。

ーローマ 2：3ー

そのようなことを行う者たちをさばきながら、同じことを行っている者よ、あなたは神のさばきを免れるとも思っているのですか。

ーローマ 2：4ー

それとも、神のいつくしみ深さが

あなたを悔い改めに導くことも知らないで、その豊かないつくしみと忍耐と寛容を軽んじているのですか。

ーローマ 2：5ー

あなたは、頑なで悔い改める心がないために、神の正しいさばきが現れる御怒りの日の怒りを、自分のために蓄えています。

木曜日の夜、旧約聖書の学びの時、これが真実であるとわかります。ユダヤ人は異邦人と同じか、それ以上に行いが悪かったのです。預言者イザヤ、エレミヤ、エゼキエル、ダニエル、同様に預言者（小預言書）たちも皆、イスラエルに、ユダヤ人に警告しました。うなじを固くする民、頑固、不従順であり、彼らの罪ゆえに、神は彼らを捕囚へと導かれました。アッシリアはイスラエル北の部族を、バビロンはユダを征服しました。神に対する反抗と罪は、一瞬快樂に見えますが、最後には破滅的な結果をもたらします。しかし従順は、神との間にいつまでも続く平安と祝福をもたらします。パウロが異邦人の信者を励ます「エペソ人への手紙」に、それが書かれています。「エペソ人への手紙」2章11節から18節、

—エペソ 2：11—

ですから、思い出してください。あなたがたはかつて、肉においては異邦人でした。人の手で肉に施された、いわゆる「割礼」を持つ人々からは、無割礼の者と呼ばれ、異邦人にとって、救いはとてつもなく大きな祝福でした。

彼らは喜びに沸いていました。救われたからです。彼らは聖霊が臨まれたことによって、心の変化を経験しました。ここの私たちのほとんどは異邦人であり、皆さんの多くは新生し、イエスに「はい」と答えた瞬間、すべてが変わりました。アンティオキアの異邦人にとって、彼らは新しい姿勢で、救われました。彼らはいつもユダヤ人に嘲笑されていましたが、今は対等です。異邦人は、イスラエルと神との特別な関係を知っていました。しかし、異邦人は常にユダヤ人が実践し生きる方法において、ユダヤ人の偽善を見ていました。異邦人はユダヤ人の行いや振る舞いの中に欺瞞を見ました。割礼は、神がアブラムと結ばれた契約のしるしでした。どのユダヤ人も、ユダヤ人男性、男子とイスラエルにいる男は皆、割礼を受けました。「創世記」17章10節から11節は語ります。

—創世記 17：10—

次のことが、わたしとあなたがたとの間で、またあなたの後の子孫との間で、あなたがたが守るべきわたしの契約である。あなたがたの中の男子はみな、割礼を受けなさい。

—創世記 17：11—

あなたがたは自分の包皮の肉を切り捨てなさい。それが、わたしとあなたがたとの間の契約のしるしとなる。

これは神とアブラムと彼の後の子孫との間の契約です。割礼とは、男子の包皮を切り取ることです。それは契約で、すべてのユダヤ人は生まれて8日目に行いました。赤ちゃんが十分健康で、血液凝固が最高の状態にある時期に行われました。この契約は、ユダヤ人が自分たちの人生を主に捧げる誓いのしるしでした。彼らは神の約束を信じ、心から神に従いました。アブラハムの子孫ユダヤ人は、世への神の使者となるはずでした。割礼のしるしは、神がご自身の民と特別な関係にあることを示しました。しかし、ユダヤ人は異邦人と同じくらい悪い行いをしました。ユダヤ人はその生き方によって神を表すはずでした。しかし、割礼はユダヤ人の多くの変化にはなりません。新しい土台の宗教、新しい土台の信仰と共に、異邦人は割礼を受ける必要がなくなりました。彼らに必要な全ては、イエスと、イエスが教えられた約束を信じることでした。しかし、ユダヤ主義者たちがやってきて、異邦人もユダヤ人と同じように、割礼を受けるべきだと主張しました。ですからパウロはペテロを断固として叱責しました。クリスチャンとして、主イエス・キリストの良き模範となるべきでした。しかし、クリスチャンとして、悲しいかな、私たちがまた挫折します。人類の絶え間ない失敗のせいです。神は一人の人を選びました。一人の人が、その子孫を通し、神の御言葉である聖書を世にもたらしました。ご存知、聖書は神のラブレターだと思います。それが神の、私たちへのインストラクションだと私たちは知っています。聖書/BIBLEの頭字語があります。B-I-B-L-E: Basic Instructions Before Leaving Earth 地球を離れる前の基本的注意書。この一人の人によって、彼の信仰によって救いがもたらされただけでなく、彼の血統によってイエスが誕生しました。世は救いを受ける機会を得ることになりました。その人はアブラムでした。神はその名をアブラハムと改められました。アブラハムは

ユダヤ民族の父であると同時に信仰によって義とされるすべての人々の父でもあります。この「義とされる」という言葉については、今日の後半で学びます。「義とされる」を覚えておいてください。私はユダヤ人とイスラエルという国を愛しています。しかし、あまりにも多くのユダヤ人が、アメリカの多くのの人々と同じように、神から離れてしまいました。繰り返しますが、ユダヤ人にとって割礼は、神との真の愛の関係を持つ証しで、それは神がアブラムと結ばれた契約のしるしでした。神がアブラムと交わした契約とは何か？「創世記」12章1節から4節、アブラハム契約が書かれています。

一創世記 12：1ー

主はアブラムに言われた。「あなたは、あなたの土地、あなたの親族、あなたの父の家を離れて、わたしが示す地へ行きなさい。

一創世記 12：2ー

そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとする。あなたは祝福となりなさい。

一創世記 12：3ー

わたしは、あなたを祝福する者を祝福し、あなたを呪う者をのろう。地のすべての部族は、あなたによって祝福される。」

アブラムは、顕著な従順さの表れとして、カルデアのウル（現在のイラク）を去り、ハランに向け北西の旅に出ました。最初の行程では、約650マイルを移動しました。アブラムは信仰の一步を踏み出し、祖国を離れ、見たことも行ったこともない土地に向かいます。神が私たちに信仰に踏み出すよう召されたら、私たちは神に従うよう祈ります。神が私たちの人生に用意される如何なる召しの旅において、常に祝福があります。ウォリーとモラがこの教会で指揮を執ったネパール宣教旅行を思い出します。帰国した人たちは、神の御手の働きを見て、輝いていました。神がネパールで彼らに啓示された数々の奇跡を分かち合いました。アブラハムはその後、ハランを離れ、南方のカナン（現在のイスラエル）を目指しました。これが神がアブラハムを導かれた約束の地でした。距離は約700マイルでした。アブラハムはラクダで旅をし、家族を連れ、家畜、持ち物と共にでした。それは長い旅でしたが、神はアブラハムの一步一步を導いておられました。「創世記」15章、契約は続きます。神はアブラハムの子孫を増やすと約束されました。アブラムは神につぶやきこう言いました。「創世記」15章3節から6節、

一創世記 15：3ー

さらに、アブラムは言った。「ご覧ください。あなたが子孫を私に下さらなかったのも、私の家のしもべが私の跡取りになるでしょう。」

一創世記 15：4ー

すると見よ、主のことばが彼に臨んだ。「その者があなたの跡を継いではならない。ただ、あなた自身から生まれ出てくる者が、あなたの跡を継がなければならない。」

一創世記 15：5ー

そして主は、彼を外に連れ出して言われた。「さあ、天を見上げなさい。星を数えられるなら数えなさい。」さらに言われた。「あなたの子孫は、このようになる。」

一創世記 15：6ー

アブラムは主を信じた。それで、それが彼の義と認められた。アブラムは信仰によって神を信じ、神は彼を義とされました。

これはアブラムの人生にとって極めて重要な瞬間です。それは転機です。アブラムと神との関係を再定義した瞬間で、彼の信仰が認められ、神はアブラハムを祝福されました。また、神はアブラハムに息子だけでな

く、広大な土地も約束されたと書かれています。「創世記」15章7節から8節は語ります。

一創世記 15：7一

主は彼に言われた。「わたしは、この地をあなたの所有としてあなたに与えるために、カルデア人のウルから

あなたを導き出した主である。」

一創世記 15：8一

アブラムは言った。「神、主よ。私がそれを所有することが、何によって分かるでしょうか。」

この契約によって、神はアブラムに広大な土地を約束されました。そのときアブラムは尋ねました。「どうやってそうなるのがわかるのですか？ どうやってそれが実現するのが私にわかるのですか？」神はアブラムに、この契約を確認し正当化するために、ある種の動物のいけにえを捧げるよう言われました。動物は半分に分かれ、各々半分を広げ、地面に置かれました。契約の途中で、神はアブラムを眠らせました。「創世記」15章12節は語ります。

一創世記 15：12一

日が沈みかけたころ、深い眠りがアブラムを襲った。そして、見よ、大いなる暗闇の恐怖が彼を襲った。

(17節まで飛ばします。)

一創世記 15：17一

日が沈んで暗くなったとき、見よ、煙の立つかまどと、燃えているたいまつが、切り裂かれた物の間を通り過ぎた。

アブラムが眠っているとき、この煙の立つかまどの幻が与えられます。地面に並べられた動物の部位の間を通り過ぎるたいまつ。これは理解すべき意義深い重要な箇所です。煙の立つかまどと燃えているたいまつ。17節は、イエス・キリストの描写と型があります。燃えているたいまつや、煙の立つかまどは、私たちの裁き主イエスの描写です。たいまつは、世の光であられるイエスの型と描写です。再度、「煙の立つかまどと、燃えているたいまつが、切り裂かれた物の間を通り過ぎた。」(創世記 15：17参照)

動物は焼かれ、丸焼きにされます。しかし、契約は承認されます。アブラムは眠っていましたが、この幻を見ます。動物の犠牲の間を通られたのは神でした。で、これは何を意味するのか？ これは私たちにとって極めて重要なことです。これは神が眠らせたアブラムと交わした一方的な契約です。アブラムではなく、神がこの契約を結ばれました。再度、動物のいけにえの間を通り過ぎたのは神だけです。アブラムの唯一の役割は、いけにえの動物を持ってくること。神が契約を結ばれ、アブラムに約束されたことを知るの重要です、注目に値します。それは彼を祝福します。神はアブラムを愛し、彼の人生に偉大な計画を持っておられました。眠っていたので、アブラムは約束をしなかったし、することもできませんでした。アブラムは、神と契約を結ばなかったし、結ぶこともできませんでした。なぜ神はアブラムをこの契約に関与させられなかったのか？ 神は人間の罪深い心をご存知です。神は私たちの罪深い本質をご存知です。神は私たちが1つの約束を守れないことをご存知です。私たちは十戒を守ることさえできません。神は人に契約や約束をさせることはあられません。神は人間がそのような約束を守れないこと、守ろうともしないことをご存知です。私たち全員のように、アブラムは神との約束を守ることができませんでした。ですから神はわざと彼を眠らせました。その日、約束したのは神だけでした私たちクリスチャンは、神が私たちとの約束を決して破られないことを知っています。神は時に遅れるかもしれませんが、私たちとの約束を破ることはあられません。アブラムを深い眠りにつかせることによって、神の人類へのメッセージは、人間の救いは神のご方法で行われること。救いは神の恵みによって、神の恵みだけによってで、行いではありません。人類は救いに関与することはできません。人間は自分自身を救うことはできません。再度、人類は神の恵み、恵みだけの神のご方法で救われます。あなたは自分の救いを獲得することはできません。神からの賜物/贈り物なのです。その賜物は、御子イエス・キリストのいのち、御自身にとって大きな犠牲を払われ捧げられました。

「エペソ人への手紙」2章8節から9節、私たちは皆、この聖句を知っています。

—エペソ 2：8—

この恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって救われたのです。それはあなたがたから出たことではなく、神の賜物です。

—エペソ 2：9—

行いによるものではありません。だれも誇るためのないためです。

では、「ガラテヤ人への手紙」16節の学びを続けます。再度、文脈上15節を読みます。

—ガラテヤ 2：15—

私たちは、生まれながらのユダヤ人であって、「異邦人のような罪人」ではありません。

—ガラテヤ 2：16—

しかし、人は律法を行うことによってではなく、ただイエス・キリストを信じることによって義と認められると知って、私たちもキリスト・イエスを信じました。律法を行うことによってではなく、キリストを信じることによって義と認められるためです。というのは、肉なる者はだれも、律法を行うことによって義と認められないからです。

NIV（新国際版）はこう訳しています。

—ガラテヤ 2：15（新共同訳）—

わたしたちは生まれながらのユダヤ人であって、異邦人のような罪人ではありません。

—ガラテヤ 2：16（新共同訳）—

けれども、人は律法の実行ではなく、ただイエス・キリストへの信仰によって義とされると知って、わたしたちもキリスト・イエスを信じました。これは、律法の実行ではなく、キリストへの信仰によって義とさせていただくためでした。なぜなら、律法の実行によっては、だれ一人として義とされないからです。

パウロは15節と16節、この2つの節を見事に結びつけます。パウロがこの教会に神の真理を大胆に語っているのがわかりました。「もちろん、ユダヤ人として私たちは真の生ける神を知っています。はい、私たちに誰も守ることのできない律法があります。もちろん、私たちユダヤ人は割礼を受けてきました。はい、あなたたち異邦人は罪びとであり、好きなように生きています。はい、あなたたち異邦人は、偽りの神々に従います。」そして、私が想像できるのは、パウロはペテロとこの教会にいる全員を見てこう言います。「ペテロよ、ユダヤ人も異邦人も皆、よく聞きなさい。この教会の異邦人の皆さん、私の話が聞こえたら、注意して聞いてください。もちろん、私たちは皆、お互いに偏見や信仰を持っています。私たちユダヤ人は、自分たちが異邦人より優れていると思っています。異邦人の皆さんは、真の生ける神を知っているので、ユダヤ人を偽善者と見ています。私たちユダヤ人は良い模範で、神の代理人であるはずですが、私たちの罪はあなた方と同じくらい悪いのです。」

パウロはこの両集団に対して、決定的かつ重要な発言をします。パウロはまた、教会へも語ります。こんにちの私たちにも語ります。使徒パウロは、ユダヤ人であろうと異邦人であろうと問題ではないと言います。私たちは皆、同じように救われます。私たちは皆、同じ方法/道で救われます。たった1つの方法/道です。：イエスによっての信仰を通してだけです。

「ですから、あなた方ユダヤ人は、イエスを受け入れた異邦人の兄弟を見下したり、裁いてはいけません。異邦人の皆さんも安心してください。神は常にあなた方を心に留め、愛しておられるからです。」ユダヤ主義者たちも出席していますが、彼らはうれしくありません。パウロは聖霊によって大胆に、真理を宣言します。16節では、「義とされる」という言葉があります。多くの人はこの言葉を読み返しますが、その意味を理解していません。重要な言葉であり、私たちはそれを理解すべきです。大きな言葉のように見えますが、

その定義は大変シンプルです。多くの場合、それは義と宣言されることです。簡単に言えば、それは次のような意味です。「まるで私が罪を犯したことがないかのように。」まるで私が罪を犯したことがないかのように。また、「ほめたたえることができる。」新共同訳はこう語ります。「人は神によって義とされる。」私たちはその答えが「信仰」だと知っています。クリスチャン全員が、「信仰によって義とされる」という言葉を聞いたことがあります。「信仰によって義とされる」を言い換えると、こう読むことができます。：イエス・キリストを信じる信仰によって、私の罪は赦されました。今まで一度も罪を犯したことがないのと同じ程度まで赦されます。イエスに信仰を置く前、私たちは罪と恥によって重荷を負わされます。私たちの中には、行き過ぎたライフスタイルのせいで打ちのめされている人もいます。悲しいことに、そのような状態のままの人が多過ぎることで。嬉しいことに、人生を変えたいと決心する人たちがいます。誰かが来て、福音を分かち合います。あるいは教会に行ったかもしれません。その人はイエスに呼び求め、神の聖霊によって生まれ変わります。再度、その瞬間、その瞬間に義とされます。あなたは義とされます。まるであなたが罪を犯したことがないかのように。「義とされる」のは、あなたが生まれ変わったときに起こります。イエスは有力な宗教指導者ニコデモに話されました。ニコデモはパリサイ人であり、宗教とユダヤ教の指導者でした。ニコデモは見て、聞いて、イエスが特別な人であることを悟りました。イエスの中にそれを見たのです。イエスは天から遣わされた人であられました。ニコデモはイスラエルの宗教指導者でした。しかし、あらゆる権力、富、名声にもかかわらず、ニコデモは答えを探し求めています。この人物はユダヤ教聖典トーラーを教えていました。ニコデモは神についてすべての答えを持っているはずでした。しかしイエスは、ニコデモがユダヤ教の指導者であることを叱責されました。ニコデモは「生まれ変わる/新生」という言葉を理解していませんでした。ニコデモはイエスに尋ねたかったのだと思います。「私は十分なのか？ 自分の人生で、天国を保証し、天国に行けるだけのことをしたのか？」ニコデモはずっとユダヤ教の教えを実践してきました。彼は神の神殿で休みなく働き奉仕しましたが、彼の心には空虚さがあつたのかもしれません。私は宗教カルトで多くの人を見ました。その皆の律法主義に喜びはありませんでした。私はそれがどのようかわかります。神を探し求めた時、30年ほど前、モルモン教会に1年間通ったことがあります。神が私を取り除かれたことを感謝します。数年後、私はイエスを見つけました。ニコデモは神に仕えるその時点まで、自分の働きと聖典の知識に信頼を置いていました。彼はモーセの律法への従順を信頼していました。割礼を、神との正しい関係のしるしとして見ていました。ですから、ニコデモはイエスのもとにやって来ました。イエスが普通の人ではないことを見抜きます。聖書には、ニコデモは夜イエスに近づいたとあります。監視の目を避けるため、迫害を避けるために、暗闇の下で来ました。彼の祭司仲間はイエスを嫌っていたからです。イエスは神の子だと宣言されました。ですから、ユダヤの指導者たちはイエスを問題にしました。彼らは抗議し、イエスは神を冒瀆していると言いました。イエスは神の御子、神ご自身であられます。イエスは神の御子、神ご自身であられます。事実、イエスは祭司たちを経済的にも混乱させておられました。イエスは、御父の家である宮で金儲けをする偽善者たちの台をひっくり返されました。それは神への礼拝のために、その目的のためだけに確保されるべきでした。イエスは全知であられます。全てを知っておられます。イエスはあなたの思いを読むことがおできになります。イエスは、ここにいる私たち、オンラインのあなた方一人ひとりの考えさえもすべてご存知です。ですから、イエスはニコデモが望むことをご存知です。ですから、イエスはすぐに本題に入られました。「ヨハネの福音書」3章3節、イエスはこう仰います。

一ヨハネ 3：3一

イエスは答えられた。「まことに、まことに、あなたに言います。人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」

イエスはニコデモに、新生/生まれ変わることが必要だと仰います。それがなければ、天国には行けません。

ニコデモはやがて信仰に至りました。この誕生は、あなたの信仰を救いのためにイエスに信頼を置くときに起こります。あなたが新生する/生まれ変わる時、あなたは義とされます。まるであなたが罪を犯したことがないかのように。神は私たちの罪を取り除かれ、主のあわれみと恵みと赦しの扉を開かれます。「東が西から遠く離れているように主は 私たちの背きの罪を私たちから遠く離される。」(詩篇 103：12)

「詩篇」103篇11節と12節は語ります。

一詩篇 103：11一

天が地上はるかに高いように御恵みは 主を恐れる者の上に大きい。

一詩篇 103 : 12一

東が西から遠く離れているように主は 私たちの背きの罪を私たちから遠く離される。

ダビデ王はこの美しい「詩篇」の作者です。この「詩篇」11節には、神を恐れ、救われる人々について書かれています。彼らは救われました。彼らの罪が取り除かれ、義とされたからです。11節の「恐れる」という言葉には二重の意味があります。未信者にとって、「恐れる」という言葉は、やがて来る裁きの日への恐れです。裁きが来ることは私たち全員が知っていますが、それは神からの分離です。聖書には、罪は私たちを神から引き離すと書かれています。聖書はこの分離を「死」と呼びます。それがこの世に死がある理由です。それが私たちは皆、いつか死ぬ理由です。私たちは皆、罪を犯したので死にます。未信者は、地獄と呼ばれる場所で永遠に過ごすことを恐れます。しかし、彼らは救いを先延ばしにします。彼らは福音を後回しにします。十中八九、彼らが自分の罪、罪深い生き方を愛しているからです。歴史上最も偉大なクリスチャンの一人に、17世紀の思想家ブレイズ・パスカルがいます。人類の霊的な状態について、彼は有名な言葉を残しています。

「人の心には、この世の何物によっても埋めることの出来ない、神のかたちをした空洞がある。（しかし、神だけが、）心の空洞は、イエス・キリストによって完全に現された、創造主なる神の愛のみによって埋まる。」

私たちは全世界を探し回って、人生でこの空洞を埋めようとしています。答えは決して見つかりません。イエスに明け渡すまでは、その空洞を埋めることはできません。私は24年前イエスに叫び求めた時、人生の答えを見つけました。先週、私は24年前にアルコール依存症だったことを話しました。アルコールを断って24年になります。私は、ここカルバリー・カネオヘで、賛美リーダーを約16年間務めました。24年前、私はギターの弾き方を知りませんでした。自分がどこから来て、今、神が私をこの素晴らしい教会の副牧師として置かれているのを思い起こすと、私は今でも自分をつねってしまいます。私はありがたく思い、感謝し、畏敬の念を抱いています。神の賜物を受け入れたイエスを信じる者にとって、恐れ（畏れ）は良い言葉です。主を恐れる（畏れる）とは、主への愛と称賛と礼拝を意味します。私たちが福音の真理、イエスが十字架上で私たちのためにしてくださったことを理解すると、私たちの心は圧倒されます。私たちは、主がいつも良いお方だとイエスはいつも思いやりがあられ、親切なお方だと知っています。イエスは私たちの人生の試練を経験されました。神がすべてのことを、神を愛する者の益のために働かせておられることを私たちは知っています。（ローマ 8 : 28 参照）

私たちは未来を恐れません。未来を握っているのは誰なのかを知っているからです。永遠の運命が天国にあることを私たちは知っています。私たちが義とされるのは、イエス・キリストへの信仰と恐れゆえです。ダビデは「詩篇」103篇12節でこう語ります。

一詩篇 103 : 12一

東が西から遠く離れているように主は 私たちの背きの罪を私たちから遠く離される。

POSB(The Preacher's Outline and Sermon Bible)では、12節についてこう述べます。POSBは私が使っている解説書です。「主が私たちの罪を取り除くのは、北から南までの距離ではなく、東から西までの距離であることに注意する。」なぜこれが重要なのか？ 北と南は最終的に交わるからです。北上できるのは地球の北極までで、そこから南下し始めます。しかし、東に旅する人は無制限に旅することができます。旅人は地球を何度も何度も周り、ずっと東に向かえます。「東と西が決して交わることがないように、神の恵みによって赦された私たちは、二度と罪と交わることはありません。」私たちは二度と罪と交わることはありません。私たちの素晴らしい神からの驚くべき恵みです！ 主は私たちの罪を取り除いてくださるだけでなく、もう覚えておられません。「ヘブル人への手紙」8章12節は語ります。

一ヘブル 8 : 12一

わたしが彼らの不義にあわれみをかけ、もはや彼らの罪を思い起こさないからだ。」

再度、神は信者の罪を取り除かれるだけでなく、決して思い出すことはありません。本当に義と認められた私たちにとって、それはどれほど励みになることでしょうか。私たちの多くは、あまりにも長い間、罪の重荷を背負ってきました。私たちは、祈りに導かれた救いの日を思い出します。私たちは自分でイエスに叫び求めました。素晴らしい日でした。その重荷がなくなり、私たちの心は変えられました。イエスが私たちの姿勢を変えてくださいました。私たちの永遠の運命も変えてくださいました。「ガラテヤ人への手紙」2章の学びに戻ります。16節を続けて分析します。パウロは16節で、私たちが救われるためにモーセの律法に従うことを当てにするなら、あなたたちは欺かれていると語ります。あなたが律法を行うことに頼っているなら、それは惑わされています。神がモーセに与えられたモーセの律法は、なぜ私たちが救えないのか？ 律法の目的は何か？ 律法の目的のひとつは、私たちに罪を自覚させることでした。それは、私たちの状態と助けを必要とすることを人類に示すためでした。旧約聖書は、罪を覆い隠すための一時的な方法を規定しました。それは荒野の幕屋での動物のいけにえによるもので、後にエルサレムの神殿でも行われました。しかし、動物の血は私たちの罪を取り除くことはできませんでした。それは、イエスが来られ、その血潮によって私たちの罪を取り除いてくださるまでの一時的な覆いに過ぎませんでした。これまで生きてきた人の中で、モーセがシナイ山から下ろしてきた律法をすべて守った人はいません。私たちは皆、十戒の少なくともひとつを破ったことがあります。「ローマ人への手紙」3章9節から20節、

ーローマ 3：9ー

では、どうなのでしょう。私たちにすぐれているところはあるのでしょうか。全くありません。私たちがすでに指摘したように、ユダヤ人もギリシア人も、すべての人が罪の下にあるからです。

ーローマ 3：10ー

次のように書いてあるとおりです。「義人はいない。一人もいない。

ーローマ 3：11ー

悟る者はいない。神を求める者はいない。

ーローマ 3：12ー

すべての者が離れて行き、だれもかれも無用の者となった。善を行う者はいない。だれ一人いない。」

(19節まで飛ばします。)

ーローマ 3：19ー

私たちは知っています。律法が言うことはみな、律法の下にある者たちに対して語られているのです。それは、すべての口がふさがれて、全世界が神のさばきに服するためです。

ーローマ 3：20ー

なぜなら、人はだれも、律法を行うことによって神の前に義と認められないからです。律法を通して生じるのは罪の意識です。

パウロは祖国イスラエルを愛していました。彼はユダヤ人の兄弟姉妹を愛していました。多くのユダヤ人がイエスを拒絶したので、パウロの心は傷つきました。再度、パウロはトーラー、ミシュナー、タルムード、そしてユダヤ教のすべての聖典を知っています。彼は最も優秀な頭脳の持ち主の一人です。神は、新約聖書の3分の1を書かせるためにパウロを召されました。もちろん、パウロはそれらの本をすべて知っていましたが、それ以上に重要なのは、その著者イエス・キリストを知ったことです。パウロはイエスによって、高い馬からたたき落とされます。パウロはアラビアの砂漠でイエスとともに多くの時間を過ごしました。パウロは神から福音の真理を学びました。パウロのイエスへの愛は計り知れず、絶え間なく成長し続けました。再度、パウロはイスラエルと同胞のユダヤ人への愛を持っていました。「ローマ人への手紙」9章にそれが書かれています。2節から4節は語ります。

ーローマ 9：2ー

私には大きな悲しみがあり、私の心には絶えず痛みがあります。

ーローマ 9：3ー

私は、自分の兄弟たち、肉による自分の同胞のためなら、私自身がキリストから引き離されて、のろわれた者となってもよいとさえ思っています。

ーローマ 9：4ー

彼らはイスラエル人です。子とされることも、栄光も、契約も、律法の授与も、礼拝も、約束も彼らのものです。

パウロは、兄弟たちのためにイエスから引き離されるのを厭わないほど、兄弟たちへの愛に溢れていたのに、同胞のユダヤ主義者たちは、パウロとパウロが説く福音を滅ぼしたいのです。4節では、神がユダヤ人を選ばれ、律法を与えられたとパウロは述べます。再び、ユダヤ民族は神にとって常に特別な存在です。再度、「創世記」15章6節を見ると、

ー創世記 15：6ー

アブラムは主を信じた。それで、それが彼の義と認められた。

それはイエスと十字架上の完成された御業を信じる信仰によってです。世はこれを理解できません。救いのためにせねばならないことは常にあります。世のあらゆる宗教は、この原則に基づいています：「行い」自分の功績や業績によって救いを獲得せねばならないという考え方で、より高い力から何かを得るために、達成せねばならないとするもの。自分がニルヴァーナ/涅槃に行けるのも、生まれ変わるのも、私がしてきたことのおかげ、良い行いによってだと。私たちは、世の中の多くの偶像や偽りの神々に取り入る可能性があります。私たちがすればするほど、もっと獲得できるというもの。悲しいことに、これが世の考え方です。今日私たちが学んだように、神が私たちの救いのために選ばれた方法ではありません。神があなたを愛しておられることを知ってください。神はあなたの人生で素晴らしい計画を持っておられます。奮闘しないでください。聖霊があなたの人生を案内され、導いてくださいます。今日の学びの16節を振り返ると、パウロはこう言います。律法を行うことによって義とされる者はいません。あなたの行いや律法への依存は、あなたを救うことはできないし、これからも救うことはありません。割礼は、あなたを救うことはできません。毎日のデボーションがあなたを救うと思ってはいけません。教会でのあなたの奉仕を当てにしてはいけません。ネパール宣教があなたを救うと当てにしてはいけません。ごめんなさい。ウォーリーとモラ。什分の一献金があなたを救うと当てにしてはいけません。教会で賛美を導くことがあなたを救うと当てにしてはいけません。カポノ、私たちの賛美リーダーは、携挙の準備ができ、天に行くことができます。聖書の教えや学びがあなたを救うと当てにしてはいけません。あなたの卓越した話術や教えを当てにしてはいけません。長年の奉仕を当てにしてはいけません。牧師という肩書きを当てにしてはいけません。パウロが書いているように、「人はだれも、律法を行うことによって神の前に義と認められないからです。」(ローマ 3：20)

ここで、オンラインで、あなたがイエスを求めたことがないなら、まだ問題があります。対処すべき罪の問題があります。その場合は、天国はあなたの家ではありません。私は真理を話す必要があります。地獄について話すのは気が進みません。しかし、そこは実在する場所で、それは避けねばなりません。この世を去るとき、天国に行ける保証を得るには、あなたが救われるように、シンプルにイエスに求めてください。イエスはあなたの心をご存知です。最後に、「テトスへの手紙」3章を読みたいと思います。

ーテトス 3：3ー

私たちも以前は、愚かで、不従順で、迷っていた者であり、いろいろな欲望と快楽の奴隷になり、悪意とねたみのうちに生活し、人から憎まれ、互いに憎み合う者でした。

ーテトス 3：4ー

しかし、私たちの救い主である神のいつくしみと人に対する愛が現れたとき、

ーテトス 3 : 5ー

神は、私たちが行った義のわざによってではなく、ご自分のあわれみによって、聖霊による再生と刷新の洗いをもって、私たちを救ってくださいました。

ーテトス 3 : 6ー

神はこの聖霊を、私たちの救い主イエス・キリストによって、私たちに豊かに注いでくださったのです。

ーテトス 3 : 7ー

それは、私たちがキリストの恵みによって義と認められ、永遠のいのちの望みを抱く相続人となるためでした。

再び、イエスは私たちが天国に行けるという確信を与えてくださいました。アーメン。会衆：アーメン。

ご起立ください。祈りましょう。カポノ、、、

天のお父様、あなたの御前に参り、今日の御言葉と御教えに感謝します。主よ、私の祈りはいつも、この場所で、オンラインで、あなたを知らない人たちの、心のその場所にあなたが来てくださるよう祈ります。「ローマ人への手紙」2章、神が私たちに与えてくださったからです。神は私たちに、神を知るための良心を与えてくださいました。ですから私たちは、真の生ける神を知らないという言い訳はできません。あなたの御前に来て祈ります。そういう人たちがイエスを自分の主として受け入れることを。主よ、今日もお母さんたちが祝福された一日を過ごせるように祈ります。私たちをお母さんたちと共に祝福して下さりありがとうございます。彼女たちを導き、案内し続けてください。あなたを知らない母親や父親、子供たちがいるなら、今日、彼らがあなたに心を委ねるよう祈ります。遅らせませんように。今日は雨が降っているので、道中の私たちへの憐れみと安全を守ってくださるよう祈ります。イエスの御名によって祈ります。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師 カルバリー・カネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii 筆記 hukuinn7